

な課題になると考える。

3 フリーカード法の授業研究会への活用について

ここでは、研究①、②から得られた知見をもとに、フリーカード法の校内授業研究会への活用の仕方を探ってみたい。

(1) フリーカード法の基本的手順

① 準備

名刺大のカード

観察者の人数×20

～30枚。

必要に応じて、観察者の名前や時刻を記入する欄を設けておく。

後の整理のことを考え

ると、付箋紙を用いるのも効果的である。

カード例

Name H. T Teme 10:35
授業時間が終わってから
まとめを行ったので、大
事な点がぼやけたのでは？

- 最終的には、5項目程度になるよう分類作業を続けていくが、無理にまとめようとせず、1枚しかないカードも大切に扱う。



- 各カードやカードの束の関係付けを行う（構造図*2の作成）。例えば、カードやカードの束の間に関連が見られる場合は一、反対の立場である場合は→と線を書いて示したりする。できるだけ先入観にとらわれず、カードに語らせることを基本にする。
- 必要に応じて、構造図を印刷し、協議のための資料として配付する。

② 授業観察の段階

観察者は、授業を観察しながら、カードに授業者の教授行動、子どもの学習行動、学級の雰囲気等について思いっくまま自由に記述していく。この際、次のことに注意する。

(ア) カード1枚につき、1項目の内容に限る。

(イ) カードの価値判断は、カード整理の段階で行えばよいので、「つまらない」と思えるようなことでも遠慮なくどんどん書く。

(ウ) 必要に応じて、色別のカードを準備し、記述の内容によって使い分ける。

③ カード整理の段階

- 授業全体の特徴や問題点などを明確にするため、授業の流れにとらわれることなく、類似する項目のカードを集め、構造化していく。

手順を次に示す。

- 観察者が記述したカードを集め、畳半分ほどの広さの机や床に広げる。

- 類似した内容のカードを集めて束ねる。一番上には、カードの束を代表するような表現で記述されているカードをおく。

④ 研究協議の段階

- 協議会参加者は、構造図を読み、次のことを把握しておく。

- 観察者は主に授業の何に注目しているか。
- 授業の特徴は何か。
- 共通に問題にしていることは何か。
- 同じ評価対象に対して全く異なった意見が出ているものは何か。

- 協議会の司会者は、構造図を熟読し、特に話題の中心となりそうなものを把握しておくようにする。できれば、カードの分類作業に携わっていることが望ましい。協議に先立ち、カードから得られたいくつかの観点を示して協議を始める。